■今川氏真　　武将。織田信長に討たれた父の後を継ぎ，今川家を滅亡させた徳川家康に臣従するも，公家文化で高家待遇に。
いまがわうじざね
銀輸出始・・1538＝　　_駿河・遠江国の名門大名で勇将今川家11代義元の嫡子に生まれる。母は，武田信虎の娘定恵院。

鉄砲伝来・・1543＝ 5歳：

勘合船終・・1547＝ 9歳：

ザビエル来日1549＝11歳：

・・・・・・1554＝16歳：_甲相駿三国同盟のため，北条氏康の長女早川殿と結婚。

・・・・・・1556＝18歳：
・・・・・・1557＝19歳：前年来，駿河国を訪問した山科言継の日記「言継卿記」には，在所の和歌始に招いたり，書や鞠を送ったりしたことが記されているように，_早くから公家文化に親しみ，
・・・・・・1558＝20歳：新領土である三河国の掌握と尾張国からさらに_西方への軍事行動に専念しようとした父から，形式上，隠居する形で，家督を譲られた直後，
桶狭間の戦・1560＝22歳：尾張に侵攻した*父が，桶狭間の戦いで織田信長に討たれたため，今川家の領国全体を継承することとなった。独立めざす松平元康(徳川家康)のもと，動揺する三河の寺社・被官・国人の繋ぎ止めを図り，外交面では北条氏との連携を維持するが，敵味方が分からなくなり，疑心暗鬼となり，
川中島最激戦1561＝23歳：足利義輝から和解を促され，北条氏康が仲介にしたりするも，_本来今川家の傘下にあった家康が，信長と結ぶことを選び，後々まで，憤ることになるが，三河国の国人らの離反は決定的になる。この年の川中島の戦いを契機に，越後上杉氏との抗争を収束させる方針に転換した武田信玄とは，甲駿同盟を確認するが，
大村長崎開港1562＝24歳：家康が信長と清洲同盟を結ぶと，自ら出兵するも撃退され，遠江国でも，国人らの離反の動きが広がる。井伊谷城主の井伊直親を呼び出して誅殺，
川中島の戦終1564＝26歳：今川氏の勢力は三河から完全に駆逐される。
将軍義輝自刃1565＝27歳：曳馬城(浜松城)主飯尾連達を謀殺するなど，少しでも独立・離反の噂の出た者を粛清するも逆効果，家臣らの支持を一気に失うなか，_妹嶺松院を室とする武田家嫡男の義信が廃嫡される事件が発生，
・・・・・・1566＝28歳：信長より先んじて，富士大宮の六斎市を楽市としたり，徳政を実施，役の免除などを行ったりしたが，_衰退を止めることはできず，寵愛する家臣の三浦義鎮に政務を任せて，遊興に耽るようになり，
岐阜楽市楽座1567＝29歳：_嶺松院は今川家に還され，武田家では世子諏訪勝頼の正室に信長の養女龍勝院を迎え，さらに徳川家康とも盟約を結んだため，甲駿関係が緊迫するなか，里村紹巴が駿河を訪問した際，自らも出席して，盛んに連歌の会や茶会を興行するばかりか，三浦義鎮の勧めにのって，駿河に風流踊を流行させ，
織田信長入京1568＝30歳：_再発した際には，自ら太鼓を叩いて興じたという。駿河へ侵攻してきた信玄に，今川館(のちの駿府城)も占領され，わずかに残った忠臣朝比奈泰朝の居城掛川城へ逃れるが，今川領分割を信玄と約していた家康が侵攻してきて，包囲され，籠城するうち，信玄が約定を破ったため，家康が和睦を求めてきて，
京都宣教許可1569＝31歳：家臣の助命と引き換えに掛川城を開城，家康・氏康との間で，武田勢力を駿河から追い払った後は，再び国主になる盟約が成立，転変後，妻早川殿の実家北条氏を頼って，小田原に行き，早川に屋敷を与えられ，北条氏政の嫡男国王丸(後の氏直)を猶子とし，成長後に駿河を譲ることを約すも，
比叡山焼討・1571＝33歳：*氏康が死去するすると，後を継いだ氏政は外交方針を転換して武田氏と和睦したため，履行されず，ついに，今川氏は滅亡した。相模を離れ，
室町幕府滅亡1573＝35歳：この時までに，*浜松に向かい，今川家を滅ぼした張本人家康の庇護下に入ったのは，家康にとっても旧国主の保護は駿河統治の大義名分を得るものであったからであろう。以後，文化人に徹することとし，
長島一揆鎮圧1574＝36歳：
長篠の戦・・1575＝37歳：_上洛し，親の仇信長と会見，蹴鞠を所望され，相国寺で，公家らと披露している。武田勝頼が三河長篠に侵入して起きると，長篠の合戦に従軍後，諏訪原城攻撃に従い，落城後，牧野城と改名され，
安土城築城・1576＝38歳：家康から，松平家忠・松平康親を補佐に，_牧野城主にされるが，
安土楽市楽座1577＝39歳：*すぐに解任されて，剃髪したらしいが，その後の動向は不明で，
本能寺の変・1582＝44歳：信長と家康によって，武田家が滅ぼされた際，家康は今川家復興を提案するも，信長は言下に否定，
賤ヶ岳の戦・1583＝45歳：近衛前久が浜松を訪れ，家康が饗応した際に，陪席していることが分かるのみ，
秀吉全国統一1590＝52歳：
士農工商公布1591＝53歳：_この頃までには京都に移り住んだらしく，仙巌斎と号して，言経はじめ旧知の公家ら文化人と往来し，冷泉家の月例和歌会や連歌の会などにしきりに参加したり，古典の借覧・書写などを行う一方で，
文禄の役・・1592＝54歳：
関白秀次事件1595＝57歳：言経と共に石川家成を訪問するなど，_徳川家との繋がりも保たれていたが，
豊臣秀吉没・1598＝60歳：次男品川高久が徳川秀忠に出仕。
関ヶ原の戦・1600＝62歳：
朱印船制始・1601＝63歳：

家康駿府退隠1607＝69歳：長男範以が京都で死去。

琉球使始・・1610＝72歳：
山田長政渡航1611＝73歳：範以の遺児範英(直房)が徳川秀忠に出仕。
ｷﾘｽﾄ教禁止・1612＝74歳：冷泉為満邸で行われた連歌会に出席し，*郷里の駿府で大御所家康と面会，品川に屋敷を与えられて，江戸に移住，同時に，生計費ためか，旧地の近江国野洲郡長島村500石を安堵されたが，
支倉常長渡欧1613＝75歳：_長年，仲良く連れ添った妻早川殿と死別し，
大坂夏の陣・1615＝77歳：江戸で_没した。
夫婦仲が良かったことから，没後まもなく，二人が並んだ肖像画が描かれ，東京杉並にある菩提寺観泉寺には隣り合って墓が立っている。武功では劣っていたが，和歌・連歌・蹴鞠などに通じた文化人で，父義元の代からの公家文化習得は，家訓として，子孫にも受け継がれ，江戸幕府に必要な，京都の朝廷や公家との交渉役として，今川家は高家に抜擢されて存続することになり，幕末の鳥羽・伏見の戦いで，幕府軍が敗れ，新政府軍が江戸を目指して進軍した際，今川範叙が若年寄を兼任している。

Wikipedia，長谷川ヨシテル「ポンコツ武将列伝」，